

立川駅南を歩く

富士見町
柴崎町
錦町

平成28(2016)年3月20日、民俗・地誌部会は鈴木功編さん委員の案内で、旧柴崎村の地域を歩きながら調べる巡見*をしました。鈴木さんは、立川の民俗はもとより自然への造詣も深く、西立川駅から柴崎体育館駅までを歩く中で、様々なことを教えてくださいました。この部会特集では、巡見の中で見聞きしたことの一部を紹介します。立川で暮らしていても気づかなかった再発見があるかもしれません。

1 航空支庁西門踏切



西立川駅を出てすぐの踏切の名前、ご存知ですか？
立川飛行場が昭和記念公園になった今でも、踏切に飛行場の名残があります。

※巡見とは

民俗・地誌部会が市史を編むための調査には、文書・民具などの史資料調査、人々から話を聞き書き調査、祭り・行事をみる祭礼行事調査そして地域の中を歩く巡見などがあります。巡見では、史資料からだけでは得られない景観の変遷の名残などの情報を収集できます。

2

富士塚公園の浅間神社

『立川のむかし話』（立川市教育委員会1977年）には、富士塚公園の小高くなった塚はダイダラボッチ（巨人）の下駄に詰まった土が落ちてできたという昔話があります。下駄に詰まった土は滝坪弁天の土と言われています。弁天は富士見高架の下に祀られています。

3 柴崎分水の水音

駅南を流れる水路は柴崎分水と呼ばれています。玉川上水から水を取り、昭和記念公園を抜けてやってきます。元文2（1737）年にひかれ人々の暮らしとともにあった柴崎分水は、多くが地下に隠れてしまいましたが、住宅街の小道を通る流れは今でも見られます。③の場所にある踏切近くのマンホールの側に立つと、今でも水のゴウゴウという音がします。



かつては伊奈道（現奥多摩街道）沿いに家が密集し、その周囲には畑が広がっていました。今はほとんどが住宅地ですがところどころに畑が見られます。ここには鈴木さんの丹精込めた畑もあり、季節に応じて、評判の野菜が実っています。

滝ノ上会館近くの畑



分水、坂を上る!?



駅南は崖線にむかって緩やかに下り坂になっています。そのなかで⑤の場所の分水は坂を上っているように流れています。実はわずかな高低差を利用して分水が流れているのと、現在の奥多摩街道の車道部分が盛り上で高くなり、分水が坂を上るようになっています。通水する際に支援した家々へ分水を通すためになされた高低差利用などの工夫からは先人の知恵と努力が見えます。



線路を越える分水

立川駅から日野へ向かう中央線。これを柴崎分水がどう越えるかご存知でしょうか。実は陸橋の近くで中央線の上を越えていきます。分水専用の橋は昔の陸橋の位置でもあり、立川村十二景にも描かれています。

諏訪神社は弘仁2（811）年に建立されました。毎年8月の祭礼は駅南一帯で賑やかに举行されます。境内には明治期に合祀された神社があります。昔は周囲が樹木に覆われ、諏訪の森と呼ばれていました。

諏訪神社

7



玄武山普済寺

普済寺は臨済宗建長寺派屈指の名利です。文和2（1353）年に開山されました。ここにある六面石幢は国宝に指定されています。境内を通る柴崎分水には洗い場跡が残っています。



9 沢の稲荷

字沢の小高くなった所に沢の稲荷社があります。その裏手では本流と支流に分かれた柴崎分水の合流場所があります。分水沿いに歩くとかつての洗い場跡があり、畑や草木の水やりで分水の水を利用する方も見られました。

10 日野の渡し碑

多摩川近く、旧甲州街道には日野の渡し碑があります。多摩川に現在のような橋が架かる以前は渡船、栈橋で往来していました。

11 ガニガラ

以前は崖線になっているところから湧水が出ていました。ガニはカニの方言で、ガニガラとはカニカワラ（蟹河原）がなまったものと考えられます。ガニガラには立川市唯一の水田があり、水田には柴崎分水の水が引きこまれています。水田では、「がにがら田んぼネット」の方たちが活動しています。

あとがき

歩いてみると、古い石碑や石仏、昔の人々の暮らしの名残など、あちこちに発見があります。地域には先人の知恵があり、それを現在・未来へと伝え続けていく人たちもいらっしゃいます。今までに出版されてきた文献からもそれらを垣間見ることが出来ます。市内の各図書館で所蔵していますので、ぜひご一読ください。（渡瀬）

- ・井上昭春 1985『流の上暮情 日野の草』
- ・鈴木功 1985『米寿現役』
- ・諏訪神社 1987『今昔写真集・諏訪神社』
- ・立川市観光協会 1986『日野の渡し 日野の渡し碑建立記念誌』
- ・立川市教育委員会 1977『立川のむかし話』
- ・立川市教育委員会 1996『立川の生活誌第1集 柴崎の女性が見た立川』
- ・立川治雄 2001『しばさきあちこち 大正・昭和の立川』
- ・田中繁 1975『飛行場と立川』
- ・保坂芳春 1988『立川の地名一立川編一』
- ・松村収治 1991『錦町 自然と歴史探訪』